

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月1日

事業所名: 集団療育センター LIB平野

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・学習スペースはパーテーションを設置し、周囲が気にならないようにしている。 ・活動スペースは色分けし区域分けしている。	・学習に集中したい児童も増えてきたので、パーテーションを増やしたり、学習スペースの改善が必要である。
	2 職員の配置数は適切である	○		・多めに配置し、目が行き届くようにしている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・家具などの角には安全対策を行っている。	・必要に応じて手すりなどの設置は検討していく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・定期的に意見を出し合い、向上に勤めている。 ・委員会の活動も定期的に行っている。	・改善の余地はまだある。後回しになってしまうことも多いので、素早く対応できるように話し合える時間を増やしていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・集計結果をもとに、意見を出し合っている。	・良かった点はより良くなるように、悪かった点は改善できるように向き合っていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページと保護者への手渡しで対応している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・実施していない
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・社内研修に参加している。必要に応じて、追加で話し合いや検討を行っている。	・研修に参加し、支援方法の質の向上に努めているが、現状に+αの研修などを受け個々の能力のスキルアップが必要と感じる。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・事前に意見を出し合い、課題の分析・支援方法の検討を行っている。	・月内の利用日数が少ない児童への支援が課題となっている。解決方法は引き続き要検討。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・使用している	・必要に応じて改善していく
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・全員で予定を決めている。	・大枠の内容は決まっているが、詳細の伝え漏れが目立つ。前日までに等きげんを切り、伝え漏れが発生しないように体制作りが必要である。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・週ごとに担当を決め、内容が被らないように実施している。	・活動内容が伝わっていないことが多くなっている。担当だけに任せるのではなく、全体で行っていく意識を持つ。 ・創作活動ではアイデアの偏りも出てきているので、意見を募って実施していきたい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・課題支援は力を入れているので、今後も引き続き取り組んでいく。	・共有方法に不十分さを感じる。報告がきちんと残るように記録の徹底を行う。 ・長期休暇(特に夏休み)は事前に課題を大筋で決める等業務を効率的にしていきたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・全体から意見や様子などを確認しながら作成している。	・月内の利用日数が少ない児童への計画作成が課題となっている。解決方法は引き続き要検討。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・活動開始前までに実施。学習内容は事前になるべく細かく指示しており、設定担当が送迎などで不在でもわかるように掲示している。	・活動内容の伝え漏れが多くなっている。事前に予定ボードへの記入と報告の徹底を促していく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・振り返りを行い、様子の共有を行なっている。また送迎時の引き継ぎ内容などの漏れも内容に記録し、休みの職員でも後日確認できる体制をとっている。	・記録用紙を書きやすく改善する必要がある。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・支援記録の記録を徹底している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・6か月に1回の頻度で実施している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		・今後もよい療育が行えるように創意工夫していく。	
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・事業者内で情報を整理し、管理者と必要に応じて担当の職員が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・送迎に伝えるようにしている。 ・様子が違う時は送迎担当職員が聞き取ってくれている。	・必要最低限の引き継ぎで終わる学校が多い。保護者には学校から伝わっていることもあるが、事業所は把握していないので混乱する場面がある。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		・該当児童なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			・該当児童なし。該当児童がいる場合は行えている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			・本年度該当者児童なし
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・社内研修の受講	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		・設定はしていないが、公園などでタイミングがあれば一緒に遊ぶようになっている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		・実施されれば参加したい
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・その日あった、いつもと違う様子は共有できている。 ・送迎時に伝えるようにしている。	・伝えるだけになってしまうこともあるので、家庭での様子も聞くことが課題。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			・必要に応じて行う。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に説明し、同意を得ている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・相談、質問があった場合は、話を聞いてから事業所に持ち帰り、相談してから報告している。	・報告内容が上手く伝わらず、解決まで時間がかかることがあることが課題となっている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・現在、要望が無いので実施していないが、申し出等あれば検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・迅速に報告を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・活動報告を配布している。	・頻度を上げる、担当が偏らないようにする等改善点は多い。
	35	個人情報に十分注意している	○		・書類関係は鍵付き書庫へ入れている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・予定や必要な物などは予定表や連絡帳への記載を行い、送迎時にも改めて伝えるようにしている。	

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		・感染症対策として実施していない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・各委員会にて策定している。また、完成しているものは職員間で回覧し、保管している。	・保護者には具体的な説明が出来ていないので、どのように説明するのが課題である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・年に2回以上の避難訓練と防災学習を行っている。	・予定表で防災訓練を実施する日を明示しているが、なぜか周知されていないので、頻度を増やすことを検討している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・研修を通して学んでいる。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・職員間で情報を共有し合い、該当保護者への説明も行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・現在該当する児童がいないが、契約時に確認するようにしている。	・簡易的な聞き取りになってしまっているので、きちんと書面で確認できるようにする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・すぐに共有することになっている。	・共有はできているが、記録忘れや遅れが多い。その日中に記録ができていないか確認する必要がある。